

大礼服の例外的効果

宮沢賢治

青空文庫

こつこつと扉を叩いたのでさつきから大礼服を着て二階の式場で学生たちの入ったり整列したりする音を聞きながらストウヴの近くできうくつに待ってゐた校長は 低く よしと答へた。

旗手が新らしい白い手袋をはめてそのあとから剣をつけた鉄砲を持って三人の級長がはいって来た。校長は雪から来る強い反射を透して鋭くまつさきの旗手の顔を見た。それは数週前いきなり掲示場にはりつけられた「われらはわれらの信ぜざることをなさず」といった風の宣言めいたものの「十幾人かの聯名のその最後に記された富沢であつた。

それについてのごたごたや調査で校長はひどく頭を悩ました。

ところがいま富沢は大へんまじめな様子である。それは校旗を剣つきの鉄砲で護るわけがちゃんとわかつたやうでもありまた宣言通り式場へ行つてからいきなり校旗を抛げ出して何か叫び出すつものやうでもありどうも見当がつかかなかつた。

みんなはまつすぐにならんで礼をした。

校長はちよつとうなづいてだまつて室の隅に書記が出して立てて置いた校旗を指した。

富沢はそれをとつて手で房をさばいた。校長はまだちつと富沢を見てゐた。富沢がいきな

り眼をあげて校長を見た。校長はきまり悪さうにちよつとうつむいて眼をそらしながら自分の手袋をかけはじめた。その手はぶるぶるふるえた。校長さんが仰るやうでないもつとごまかしのない国体の意義を知りたいのです と前の徳育会でその富沢が云つたことをまた校長は思ひ出した。それも富沢が何かしつかりしたさういふことの研究でもしてゐてじぶんの考へに引き込むためにさう云つてゐるのか全く本音で云つてゐるのか、或は早くもあの恐ろしい海外の思想に染みてゐたのかどれかもわからなかつた。卒業の証書も生活の保証も命さへも要らないと云つてゐるこの若者の何と美しくしかも扱ひにくいことよ 扉がまたことごとく鳴つた。

古いその学校の卒業生の教授が校旗を先導しに入つて来た。校長は大丈夫かといふやうにじつとその眼を見た。教授はその眼を読み兼ねたやうに礼をして「お仕度はよろしうございま「す」か。」と云つた。「よし」校長は云ひながらぶるぶるふるえた。教授はじぶんも手袋をはめてないのに気がついて あ失礼と云ひながら室を出て行つた。校長は心配さうに眼をあげてそのあとを見送つた。

校長の大礼服のこまやかな金彩は明るい雪の反射のなかでちらちら顫へた。何といふこの美しさだ。この人はこの正直さでこゝまで立身したのだ と富沢は思ひながら恍

惚として旗をもつたまゝ校長を見てゐた。

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

大礼服の例外的効果

宮沢賢治

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>